

進路を決める前の中学生に建設工事の現場を体験してもらうことで、建設業を将来の進路選択の1つにしてもらおうという宮城県内で初めての試みが13



測量機器の使い方を学ぶ

宮城県初の中学生現場体験

仙台河川国道・宮建協が共催

将来は建設業へ

日、復興工事が急ピッチで進む名取市関上の堤防災害復旧の現場で行われた。

参加したのは仙台市立柳生中学校2年の鈴木悠矢君と田中秀汰君。10日から14日までの職場体験で2人を受け入れている東北地方整備局仙台河川国道事務所が、宮城県建設業協会の協力を得て、職場体験のメニューの一部を組み込んだ。訪れたのは、橋本店が施工している名取川災害復旧工事閉上

第6工区の現場。2人は担当者
の説明を受けながら、堤防のコンクリートブロックの設置誘導
や測量機器による計測などを実
際に経験した。

プログラムには、コンクリート
ブロックの重量当て、測量機
器を使っての宝探しと発見した
お宝に応じた副賞の授与など、
楽しみながら建設業の作業を経
験できる工夫が施され、真剣な
中にも和やかな現場体験となっ
た。

協力した橋本店の常前隆弘土
木部部长は「復旧復興のため一
丸となって頑張っているが、建

設業は人手が不足している。興
味を持って、われわれの一員に
加わってほしい」と2人に呼び
掛けた。建設業の一端に触れ、
鈴木君は「建設業が国のために
なる仕事だということが分かっ
た。とても貴重な体験をさせて
もらった」、田中君は「たくさ
んの人の役に立っている仕事」
と話し、それぞれ好印象を抱い
た様子だった。

仙台河川国道事務所では、28
日にも仙台南部海岸復旧工事編
として、仙台市立郡山中学校2
年生による体験会も予定してい
る。